

神の犠牲的な愛の訓戒（第2コリント 2:1-11）

2020年6月21日（日）

ジョーイ・ゾリーナ牧師

先週は第1コリント5章1-13節を見て、健康的な教会となるためになぜ教会の訓戒が必要なのかを見ました。今日は第2コリント2章1-11節に戻ります。そして、次週に2週間前にやり残した4章の続きを見ていきましょう。今日の質問はこれです。「教会の訓戒のゴールとは？」これに答えるために、3つの洞察をしたいと思います。

1、痛みをもたらす犠牲的な愛 2、悔い改めに導く犠牲的な愛 3、赦しに導くキリストの犠牲的な愛

1. 痛みをもたらす犠牲的な愛

「1 そこでわたしは、そちらに行くことで再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。 2 もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませる人以外のいっただれが、わたしを喜ばせてくれるでしょう。 3 あのようなことを書いたのは、そちらに行って、喜ばせてもらえるはずの人たちから悲しい思いをさせられたくなかったからです。わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。 4 わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。」

1節でパウロはコリントの教会に言っています。「わたしは、そちらに行くことで再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。」コリントでパウロの信用性が疑われるようになっていたことを思い出してください。権力や認知されることを偶像と化していた人たちに敵対心を持たれていたのです。そしてパウロはそれに対して手紙をもって応答していました。（4節でそのことを言っています）現代では、パウロは第1コリント人への手紙を書き終えてから、エペソからコリントに行ったと言われていました。彼の最初の訪問は彼にとってもコリント人に

とっても痛みのある経験になってしまいました。「再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい」ために、涙ながらに手紙を書き、テトスを通じて送ったのです。悲しみの訪問を避けた理由を2節で言っています。「もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませる人以外のいっただれが、わたしを喜ばせてくれるでしょう。」パウロがここで、コリント人との関係で悲しみではなく、喜びについて言っているところに注目してください。

また、3節で「あのようなことを書いたのは、そちらに行って、喜ばせてもらえるはずの人たちから悲しい思いをさせられなくなかったからです。わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。」パウロはコリント人との関係で悲しみではなく、喜びが欲しかったのです。彼自身が悲しみの原因になりたくなく、こう言っています、「わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもある」と。言い換えると、パウロは自分が喜んでいる時、コリント人たちも彼の喜びを感じていると自信を持っています。このような共通の喜びはパウロが望んでいたものです。悲しみでなく。そして、1：24から分かるのは、パウロは信仰により、彼らの喜びのために働いていたということです。「あなたがたの信仰を支配するつもりはなく、むしろ、あなたがたの喜びのために協力する者です。」喜びのために働く中で、彼も喜びを欲していました。「わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもある」とパウロが言っているように、重い牧師的な心で、彼らの間違いを正すために書き記す時でも、彼らの喜びのために働いていたのです。4節で言います、「あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。」彼の手紙はコリント人たちを悲しませたりするためではなく、愛のある親のように間違いを正すために書かれました。これは犠牲的な愛です！彼は「わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。」と書いています。言い換えると、クリスチャンの人生やミニストリーは、居心地の良いところを出て他の人を愛することに尽きます。クリスチャンの愛は決して保身になることはありません。他の人に対して冷たい心を持つ宗教ではありません。関係が困難になった時、「退避ボタン」を押しては、この共通の愛、喜びは起きません。パウロは決して彼を不快にさせた人々をも見捨てることはできませんでした。

そしてパウロは他人を深く愛するということは弱さを出すということを表しています。人間関係の中で喜びや、相手の喜びを求めないのは愛ではありません。ですが、誰かを愛することは感情的にも、肉体的にも、霊的にも犠牲が伴うことです。あなたの時間を取り、エネルギーを消費し、涙を流さなければいけない時もある！パウロが「悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。」と言っているのは、宗教の仮面を被っていないということです！他人を愛した生身の人間が涙を流したのです。ヨハネ福音書11：35でも「イエスは涙を流された」とあります。悩みと愁いに満ちた心で、決して涙を流すことなんてない愛は偽の愛です。ですがイエスの愛は相手のために愛するということです。コリント人への親のようなパウロの心を再び見てみてください。4節で「わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。」と言っています。

ですから、犠牲的な愛は居心地の良い偶像を打ち砕きます。そして「愛は不義を喜ばず、真実を喜ぶ。」（第一コリント13：6）とあるように、犠牲的な愛は真理に基づきます。ですのでパウロは人々を正すために愛のレターを送りました。それは「わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。」あふれるほど抱いている愛という言葉は、過剰なほど、抑えるものなどないほど愛するということ。これが、他人を深く愛する意味を知っている苦しみのリーダーです。心から自分自身を捧げること。そしてこの涙ながらの手紙が最終的にコリント人を悔い改めに導いてきます。（7：5-6）次に見てみましょう。

2.悔い改めに導く犠牲的な愛

「5 悲しみの原因となった人がいれば、その人はわたしを悲しませたのではなく、大げさな表現は控えますが、あなたがたすべてをある程度悲しませたのです。6 その人には、多数の者から受けたあの罰で十分です。7 むしろ、あなたがたは、その

人が悲しみに打ちのめされてしまわないように、赦して、力づけるべきです。8そこで、ぜひともその人を愛するようにしてください。」

さて、5節でパウロが言っている、悲しみの原因なった人は誰でしょうか。私が理解している中で、伝統的に何人かの学者は、これは第1コリント5章の悔い改めなかった人のことだと言っています。しかし、他の聖書的な学者は、いやこれは第1コリント5章の人ではないと言います。では、一体誰のことでしょうか？ある解説者は、パウロはコリントで、彼の高潔さと信用性を非難することを導いた人のことを言っていると言います。やはりこの人は偶像礼拝を支持する人だった可能性もあります。（6章14節）しかし、この人が誰であろうと、パウロは「悲しみの原因となった人がいれば、その人はわたしを（個人的に）悲しませたのではなく、大げさな表現は控えますが、（教会にいる）あなたがたすべてをある程度悲しませたのです。」と言っています。だから、ここで権力に飢え乾くような悔い改めない罪が教会全体を傷つけるかが分かりますよね？パウロは、この人は「あなたたちみんなを」ある程度悲しませたと言います。なぜなら、第1コリント12章26節でもパウロは「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しむ」と言っているからです。だから、パウロのようにお父さんのような心を持つ人が苦しむなら、コリントの教会はこの苦しみを共に分かち合うように導かれていたのです。

しかし、分裂を起こし、悔い改めない人をどのように扱えば良いのでしょうか。初めに、イエスが言われた、マタイ18章の過程を適応しましょう。（マタイ18章の過程：兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。）そして、この過程の最終段階では悔い改めない人に訓戒を与えなければいけません。第1コリント5章5節で、コリントの人々が悔い改めなかった人の罪を見て見ぬふりをしたので、パウロはすぐに行動し、「このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。」と言いました。しかし、ここ6節では「その人には、多数の者から受けたあの罰で十分です。」と言っています。パウロは、彼らがパウロの指示に従ったからもう罰は十分だと言います。

さて、現代の私たちは、「罰」とはとても強い言葉だと考えます。現代人はそれを「不公平」と考えます。なぜなら私たちの愛の定義が、「罰」のような言葉と一致しないからです。私たちは、罪を罰するには十分きよい神様は欲しくないけど、自

分が他人を罰することには問題がありません。クリスチャンでさえ、「罰」という言葉を小さくしてしまい、原理主義すぎると決めつけてしまうのです。しかし、私たちは、社会の全ての部分で、相互関係があり、犯罪者を罰する過程があります。例えば、詐欺的な弁護士は職務を禁じられます。職場で、非正直で非良心的な人がいたら解雇されます。不正医療をした医者には医師免許を剥奪されるでしょう。職権乱用をした教師も解雇されます。飲酒運転をしたらその罰を受けます。。。などです。だから、ここで「罰」と訳されているこの言葉は、「ペナルティー」という意味も含みます。先週、コロナウィルスに感染した人を回復させ、コミュニティの健康を守るために、隔離することは愛だと話しました。同じように、罪は靈的な癌のようなもので、その人の靈的健康を回復させ、教会に戻すために悔い改めない人を訓戒することは愛です。そして、それが、コリントの教会がしたことです。コリントの大部分の人々はパウロの手紙を読んで従い、問題を起している人に罰を与えました。そして彼らが宗教的な冷たい心になるのではないかと恐れていましたが、パウロは7節で「むしろ、あなたがたは、その人が悲しみに打ちのめされてしまわないように、赦して、力づけるべきです。」と書いています。

いいですか、冒頭で私はこの質問をしました。「教会の訓戒のゴールとは？」パウロはここでその答えを言っています！ゴールは、その人を健康的な靈的状态へ回復させ、教会のフェローシップに戻すことです。多くの場合、たくさんの痛みや、侮辱、恥ずかしさを引き起こした人々から背を向けてしまいそうになります。その人が悔い改めたとしても、恨みを持ち、その人から離れてしまう傾向があります。だから、この時もコリントの人々はこの男性から離れる誘惑がありました。しかし、6節でパウロは「その人には、多数の者から受けたあの罰で十分です。」とパウロは言います。パウロはその人の名前すらあげていません。その人をさらに不名誉にすることを拒みました。これはすごいことだと思いませんか？それより、パウロはこう言いました。「多数の者からの罰は実行されました。厳しい愛を示しました。そして、もう罰は十分です。なぜなら彼が心から真実に悔い改めたからです。」

だから、パウロは7節で「むしろ、あなたがたは、その人が悲しみに打ちのめされてしまわないように、赦して、力づけるべきです。」と書いています。いいですか、これは教会の訓戒が行われるうちの1つです。たくさんの痛みをもたらした、悔い改めた人から離れたと思う誘惑はあります。しかし、福音の赦しと慰めを提供することはまた別の話です。言い換えると、教会の訓戒は、その人が悔い改めて、回復し、教会のフェローシップに戻るまで完了されないのです。いいですか、後の7章10節で「神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。」と書いています。同じように、この男性が悔い改めたので、「その人から離れるのではなく赦し、彼に対して冷たい態度を取るのではなく、慰め、力づけるべきです。」とパウロは言います。

いいですか、主な問題は福音です。ここでの問題は、悔い改めていないクリスチャンと悲しんでいる使徒たちの間のことではありません。この男性は、パウロと教会に対してだけ罪を犯したわけではありません。彼はとりわけイエスご自身に罪を犯したのです。他人に対しての罪は神様に対する罪なのです。聖霊は罪の確信を心に与えますが、悪魔は私たちを責め、私たちに大きな苦しみを残します。だから、パウロはこう言っているのです。「その人が悲しみに打ちのめされてしまわないように…その人を愛するようにしてください。」（8節）なぜパウロはこう言っているのでしょうか？なぜなら、赦しは私たち全員に与えられたイエスの犠牲的な愛だからです。そして、イエスに赦された者は皆、他人も赦します。では、最後のポイントを見ましょう。

3. 赦しに導くキリストの犠牲的な愛

「9 わたしが前に手紙を書いたのも、あなたがたが万事について従順であるかどうかを試すためでした。 10 あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。 11 わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです。」

パウロが9節で「わたしが前に手紙を書いたのも、あなたがたが万事について従順であるかどうかを試すためでした。」と言っているのを見てください。最初から彼らの最善をパウロは求めているのです。なので、万事について従順であるか試すために書きました。これは試す（テスト）ものと言っています。受け取った福音に従うのかどうかのテストです。喜んで人を訓戒し、赦し、彼への愛を再確認するかどうかのテストです。彼らは義理の母親と肉体関係を持っていた男性を訓戒することを拒んでいましたが、（第1コリント5章）ここで、この教会の人々がテストに合格したことがわかります。

そしてパウロが（10節）「あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。」と述べています。言い換えると、パウロはパウロ自身がしていないことをコリント人たちがする、と決めつけていませんでした。そし

て、「わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。」とも言っていて、赦しは「あなたがたのため」と言っているのに気づいてください。赦しは彼らの霊的な健康のためでした。そうです、赦しは当事者のためです、それによって、過度な悲しみに飲み込まれないためです。ですが、赦しはコリント人のためでもあったのです。彼らの霊的な健康のため。彼は「わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは・・・あなたがたのために赦したのです。」と言っています。さあ、どうして赦しがそんなに大切なのでしょうか。理由は2つあります。

理由①パウロは、「わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです。」と言います。いいですか、赦しというのは、元々、私たちの性質に備わっていないため、人間的に難しいことです。私たちの自然な心の標準モードでは、誰か自分を傷つける人がいたら罰して、その人からはもう離れます。しかし、もしコリントの教会が悔い改めた男性を許さなかったとしたら、彼らは悪魔のやり口に「つけ込まれている」ことになります。そうになると、彼らは男性を愛を持って勝ち取ることができなかったということです。そして、3節でパウロが求めていた一致した喜びではなく、教会全体に、悲しい、苦い思いが広がっていたことでしょう。そして、悪魔が有利になり、教会に分裂をもたらしたでしょう。ここでの「つけ込まれている」という言葉は、「誰かより有利になる」という意味です。悪魔のやり口は、大きな悲しみを持つ人の心に付け入り、教会を分裂させるのです。

理由② 赦しがとても重要なもう1つの理由は、赦しほど、この世界に福音の美しさを示すものはないからです。赦しは、福音の核であり、中心です。赦しとは、傷つけた方は無償で受け取れますが、赦しを与える方は犠牲が伴います。赦しとは、犠牲を伴う愛です。なぜなら、それはいつも、赦すためにあなたの感情、痛み、名誉を犠牲にするからです。あなたは攻撃を吸い取るのです。あなたは負債を取り消すのです。もはや彼らにそれらを残さないのです。なぜなら、それをしなければ、あなたの心の喜びが奪われるからです。では、パウロはこのように赦す力をどこで手に入れたのでしょうか？コリントの人々もこのような赦しの力をどこで手に入れるのでしょうか？パウロは、「わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。」と言います。「キリストの前で」というのは、最高法廷にいるということです。なぜなら、キリストは最高権威の裁判官だからです。いいですか、パウロは、「私はキリストの前で赦した」と言いま

す。あなたがキリストの前で誰かを赦す時、神様はとても喜んでいてくれるのです。福音の中心はこれです。イエスは自分には受ける必要のなかった罰を受けてくれた。それは本来は私たちが受けられなかった赦しを与えてくれるために。言い換えると、キリストから罪の赦しを受け取っている人々は、他人を多く赦すことができるのです。キリストの前で、本来は有罪判決を受けなければならない人たちに、その反対に赦しを与えられるのです。これが恵みです。神様の恵みは、有罪判決がふさわしい罪人たちに、その反対のものを与えるのです。なぜなら、キリストが、私たちも他の人を赦すことができるように、私たちの罪を負って究極の罰を受けてくださったからです。

マタイの福音書18章で、兄弟を悔い改めに導く方法を教えた直後、イエスは「仲間を赦さない家来」の例え話をしています。そして35節でイエスは、「あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」と言っています。言い換えると、赦しは、あなたの心にある福音から他の人の心に与えられるということです。なぜなら、福音の中心は赦しだからです。もし私たちが赦すことを拒むなら、神様は私たちに責任を与えます。しかし、ここに良い知らせがあります。罪を全く知らないイエスは、私たちの罪のために究極の罰を受けてくださいました。それは、私たちが全く受ける価値のなかった赦しを受けることができるようになるためです。だから、赦しとは、私たちがキリストから受け取る犠牲的な愛なのです。そして、赦しとは、私たちも他人に捧げる犠牲的な愛です。私たちの赦しを受け取るかどうかは彼ら次第です。しかし、私たちが赦すかどうかは私たち次第です。争い、憎しみ、暴力、復讐に引き裂かれたこの世界の中で、キリストの赦しによって赦されているクリスチャンは、この世界を、人を、赦す人です。これが、悪魔の計画に打ち勝つ方法です。悪魔の策略は、人々の心に赦さない心の種を植え付け、人々を分裂させます。悪魔のやり口は、分裂させ、支配することです。しかし、パウロは、この悪魔の策略を阻止する方法は、「キリストの前で」そしてキリストの御名によって赦すことです。キリストは、キリストの教会におられます。キリストは、あなたの内におられます。キリストは、あなたを赦すために十字架の上で犠牲的な死を遂げたのです。キリストは、本来は受けるべき価値のなかった私たちが赦しを受けれるように、彼には受ける必要のなかった裁きを受けてくださったのです。だから、私たちは、「赦された人々として、他の人々を赦す」これがこの世界に対しての証になるのです！